

基本目標成果指標の目標値

総合戦略基本目標の成果指標（現状値は平成30年度。ただし平成29年度把握は*印）

令和 2 年2月

大船渡市企画政策部企画調整課

基本目標 1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする

	名称	単位	現状値	目標値	出所
1	市内総生産	百万円	187,378	166,567	岩手県市町村民経済計算年報から
2	基盤産業総生産	百万円	36,039	37,701	岩手県市町村民経済計算年報から

市内総生産（百万円）：各年度の実績

現行の目標値 166,567百万円 [設定根拠：復興需要初期を含むH24数値（166,152百万円）の維持]

※ H28数値（187,378百万円）うち建設業（48,269百万円）が大きい

第2期戦略での目標値の考え方

現行目標値 166,567百万円（震災前の25～30%増）の継続（復興需要収束後の軟着陸地点として）

※ 建設業（48,269百万円）は縮小見込、製造業は震災前の1.5倍（30,094百万円）を維持向上、それ以外の業種は震災前と同水準を維持

（計算）① H28数値（187,378百万円）から建設業の半減（24,135百万円）を想定して控除 163,243百万円

② 目標値（166,567百万円）と建設業半減（163,243百万円）の差（3,324百万円）を総合戦略で伸長させる

→ 基盤産業（水産業、鉱業、製造業）分 1,662百万円

→ 小売業、宿泊飲食サービス業分 1,662百万円

基幹産業総生産（百万円）：各年度の実績

現行の目標値 32,392百万円 [設定根拠：事業再開等を加味して1割弱で設定]

第2期戦略での目標値の考え方

H28数値（36,039百万円）に上記の基盤産業伸長分を加える 37,701百万円（震災前の30～37%増：市内総生産の伸び率と同程度）

※ 水産業は震災前の10%減の回復、鉱業は震災前の2倍強を維持、製造業は震災前の1.5倍を伸長

（計算）① H28数値（36,039百万円）に上記分（1,662百万円）を加える 37,701百万円

基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる

	名称	単位	現状値	目標値	出所
1	年間入込客数（1～12月）	千人	697	797	岩手県観光統計
2	年間宿泊者数（1～12月）	千人	198	228	観光推進室から
3	移住者数	人	11	100	住民異動データから算定

年間入込客数（千人）：各年度の実績

現行の目標値 1,200千人 [設定根拠：H26数値（1,125千人：復興需要込み）の維持向上]

※ H30数値（697千人）復興需要収束によって半減（H28以降は70万人で推移：震災前の30%減）

※ 月別入込者数では、5月の8万人前後、8月の12万人前後がピークで、それ以外の月は4～5万人前後

第2期戦略の目標値の考え方

月別入込者数からオンシーズン（4～11月）とオフシーズン（12～3月）に分けて集客目標を設定

（計算）① オンシーズン（4～11月）平均10,000人増 80,000人

② オフシーズン（12～3月の4か月間）平均5,000人増 20,000人

③ H30数値（697千人）に100,000人を加える 797千人

→ 体験プログラム等の充実で全体的に底上げ、平時の買い物・飲食等での集客を重視した施策展開

年間宿泊者数（千人）：各年度の実績

現行の目標値 525千人 [設定根拠：H26数値（514千人：復興需要込み）の維持向上]

※ H30数値（198千人）復興需要収束によって半減以下（H28以降は20万人で推移：震災前の30%減）

第2期戦略の目標値の考え方

復興特需時期を除き、年間入込客数の約3割程度が宿泊者数が占めることから集客目標を設定

（計算）① 入込客数は100千人増の見込みからその3割として 30千人

② H30数値（198千人）に30千人を加える 228千人

移住者数（人）：各年度までの累計

現行の目標値 50人 [設定根拠：復興に伴う移住者の動向を踏まえて設定]

※ H30数値（44人累計）概ね目標値を達成（窓口でのアンケート調査）

第2期戦略の目標値の考え方

関係人口化を図ることで移住者を増やすこととし、現行目標値の2倍を設定

（計算）① 50人×2倍 100人

基本目標 3 大船渡で安心して家庭を築き、子どもを産み育てられるようにする

	名称	単位	現状値	目標値	出所
1	婚姻件数	人	125	150	岩手県環境保健研究センター資料から
2	合計特殊出生率	件	1.61*	1.80	岩手県環境保健研究センター資料から

婚姻件数（件）：各年の実績

現行の目標値 なし

※ H30数値（125件）震災以降150件前後で推移し、ここ3年は130件前後

第2期戦略の目標値の考え方

人口ビジョンの2025年の合計特殊出生率1.80の実現を基本に設定

※ 過去の合計特殊出生率1.80となったH8の婚姻率（4.6）と2025年の推計人口（33,527人）から算定

（計算）① 婚姻率4.6を2025年推計人口33,527人で割り返す 154件

② 震災以降の150件前後での推移を維持

合計特殊出生率（人）：各年の実績

現行目標値 なし

※ H29数値（1.61人：212人）震災前後は1.3～1.5人で推移し、ここ2年は1.6超で推移

第2期戦略の目標値の考え方

人口ビジョンの2025年の合計特殊出生率1.80を1年前倒しで設定

（計算）① 人口ビジョンの2025年推計人口の設定1.80を目標

基本目標 4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる

	名称	単位	現状値	目標値	出所
1	地区計画を作成した地区数	団体	0	11	市民協働準備室から
2	公共交通利用率	人	21.5*	23.9	各事業所から

地区計画を作成した地区数（団体）：各年度までの累計

現行の目標値 なし

※ R01数値（0団体）

第2期戦略の目標値の考え方

先行地区（日頃市町）で地区計画の作成及び地区運営組織を設立

その後、地区公民館エリア単位で順次作成（地域助け合い協議会の設立年数を考慮）

（計算）地区公民館エリア単位での作成 11団体

公共交通（鉄道・バス）利用率（人）：各年度の実績

現行の目標値 なし

※H29数値（21.5人）

JR（230,142人）＋三陸鉄道（97,282人）＋岩手県交通（469,548人）

乗車人員（796,972人）／H29.9.30住民基本台帳人口（37,022人）＝21.5人

第2期戦略の目標値の考え方

公共交通ネットワーク再編による利便性向上でバス利用者を維持、デマンド交通の利用者を加味

JR及び三陸鉄道は、市民利用のほか観光利用の増加を見込む

（計算）① JR（25万人）＋三陸鉄道（10万人）＋岩手県交通他（45万人）＝80万人

② 人口ビジョンの2025年の推計人口33,527人で割る 23.9人